関西大学政治学研究部
2010 年度前期勉強会　β班　第 2 回

日本社会党

～野党としての社会党の思想～

2010 年 5 月 18 日
文責：上野　竜馬

Ⅰ.はじめに
Ⅱ.基礎的事項
Ⅲ.55 年体制以前の社会党
Ⅳ.左傾化する社会党
Ⅴ.現実政党化を目指す社会党
Ⅵ.分析
Ⅶ.総括

Ⅰ.はじめに

55 年体制下において、一貫して与党の座にあり続けたのは自由民主党である。日本社会党(以下、社会党と略記)も 55 年体制の一翼を担った政党であるが、社会党は 55 年体制下において、一度として政権を担うことはなかった。なぜ社会党は与党の座につけなかったのか。

本勉強会では、社会党の思想という側面から、社会党が政権を獲得できなかった理由を検討していきたい。

Ⅱ.基礎的事項

・理論的対立軸
- 外交・防衛に関する対立軸…(1)
- 党組織の性格に関する対立軸…(2)

―左派：(1)については護憲平和主義
(2)についてはマルクス(・レーニン)主義に基づく階級政党
―右派：(1)については現実主義
(2)については社会民主主義に基づく国民政党

Cf.資料編、図 1

Ⅲ.55 年体制以前の社会党

・社会党結党

―中心となったのは右派の西尾末広、水谷長三郎、平野力三ら

―当初の綱領…民主主義体制の確立
　　社会主義の断行
　　恒久平和の実現
　　} 政策としては社会民主主義を志向

・「森戸・稲村」論争

―1949 年総選挙で敗退した後の、今後の方針を巡る左右両派の論争

森戸(右派)…社会党は階級政党ではなく、あまねく大衆の前に解放された国民政党
稲村(左派)…社会党は労働者階級の政党で全国民を包括するが、国民政党ではない

⇒「階級的大衆政党」という玉虫色で決着

・平和 4 原則

―1951 年、マッカーサー元帥「年内講和」、「日本再武装」、「集団安全保障」

⇔社会党は左派主導で再軍備反対決議を可決

⇒全面講和、中立堅持、軍事基地反対、再軍備反対の平和 4 原則が確立

・左右分裂

―講和・安保をめぐり、議論が紛糾

左派…講和反対、安保反対
右派…講和賛成、安保賛成

→右派は中間派と妥協して講和賛成、安保反対に方針転換

⇒左派社会党と右派社会党に分裂

・左派社会党

―1952 年 1 月、左派社会党大会

→階級的大衆政党の結集を宣言

―多数派をとった場合、政権交代を認めず、一党独裁体制を目指す(永久政権論)

・右派社会党

―1952 年 1 月、右派社会党大会

―社会民主主義に立脚

―必ずしも再軍備に反対ではない(警察予備隊程度の治安力は容認)

Ⅳ.左傾化する社会党

・左右社会党の統一

―政権獲得を大義名分として、1955 年 10 月に統一

―左派の鈴木派と右派の河上派が統一に向けて動く

⇔両社ともに派閥抗争の力学が働き、政策のすり合わせは行われず

―統一直後の社会党の 2 つの側面

- 国会闘争による抵抗政党化
- 政策への影響力を重視するバーゲニング政党化

・民社党の分離

―安保改定をめぐり、西尾派が左派と対立

具体的な対案を出すように主張する西尾は党内で孤立

→西尾派を率いて脱党、民主社会党を結成

⇒党内はほぼ左派に純化

<u>Cf.資料編、図 2</u>

・「構造改革」論の登場

―1960 年 10 月、委員長代行の江田三郎が発表

―資本主義の急進的な転覆によってではなく、種々の改革を積み重ねていくことにより、社会主義の実現を図る(社会民主主義的)

→江田は構革論と社民主義は異なるものと主張するが、理論的差異は不明確

∴左派から社民主義と批判を受ける

⇒構革論への反動により、左傾化・反社民主義へ

・江田ビジョン

―1962 年 7 月、江田三郎が発表

―米国の生活水準
ソ連の社会保障
英国の議会制民主主義
日本の平和憲法
} これらを総合調整して進むとき、大衆と結んだ社会主義が生まれるとした

・「道」の採択

―1966 年 1 月、「日本における社会主義への道」を綱領補完文書として採択

―保革対立をブルジョワジーvs.プロレタリアートととらえる

→旧左社綱領への回帰を目指す

Ⅴ.現実政党化を目指す社会党

・現実政党化への動き

―1978 年、社会主義理論センター設立

―「道」の再検討を開始

→1982 年 12 月、「われわれの目指す社会主義の構想」採択

―やや右傾化(中道方向へシフト)…社会民主主義の追求

・「新宣言」

―1986 年 1 月、「日本社会党の新宣言―愛と知と力による創造」

―福祉国家の承認
複数政党制と議会制民主主義
} 江田三郎の流れをくむ右派(社会民主主義的)な方向性

Cf.資料編、図 1

Ⅵ.分析

・なぜ社会党は政権を取れなかったのか

―社会党自身の問題

Cf.資料編、図 3、図 4

→では何が問題だったのか？

・野党の 4 つの機能

―政策発信機能　Ex.オルターナティヴの提示

―対抗リーダー発掘機能　Ex.次期総裁候補の提示

―反対する機能　Ex.①反対の意思表示、②政策変換能力

―国民合意形成機能　Ex.議案の修正・妥協工作

⇒安保改定までは「護憲・反安保」がオルターナティヴとして機能していたが、それ以後は抵抗政党として特化？

Ⅶ.総括

以上、結党以来 55 年体制が崩壊するまでの社会党の思想の変遷についてたどってきた。その中から、社会党は 60 年安保闘争以後抵抗政党として特化し、自民党に対するアンチ・テーゼとして革新勢力の中核を担ってきたものの、野党第 1 党である社会党が明確なオルターナティヴが提示できなかったため、社会党は政権を獲得できなかったという仮説を立てた。この仮説が正しいとすれば、少なくとも野党第 1 党が与党に対するオルターナティヴを提示していなければ政権交代は起こらないことになる。

残念ながら時間の都合で仮説を検証するには至らなかったので、後の議論でこの仮説の是非について、参加者の方々の意見を伺うことができればと思う。

【参考文献】

石川真澄『戦後政治史　新版』岩波書店、2004 年。

石川真澄『人物戦後政治――私の出会った政治家たち』岩波書店、2009 年。

梅澤昇平『野党の政策過程』芦書房、2000 年。

新川敏光『幻視のなかの社会民主主義』法律文化社、2007 年。

鈴木徹三「戦後社会運動史資料論―鈴木茂三郎」『大原社会問題研究所雑誌』517 号、2001 年、pp.46-63。

中邨章、竹下譲〔編〕『日本の政策過程』梓出版社、1984 年。

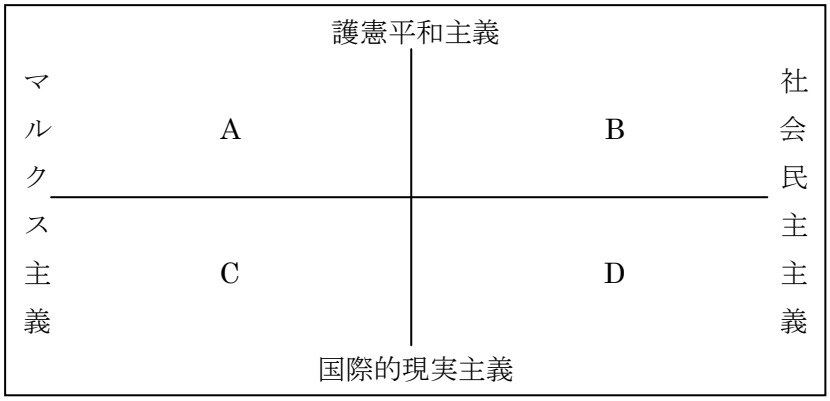
原彬久『戦後史の中の日本社会党　その理想主義とは何であったのか』中央公論新社、2000 年

山口二郎、石川真澄〔編〕『日本社会党　戦後革新の思想と行動』日本経済評論社、2003 年

横関至「平野力三の戦中・戦後(下)――農民運動「右派」指導者の軌跡」『大原社会問題研究所雑誌』615 号、2010 年、pp.44-65。

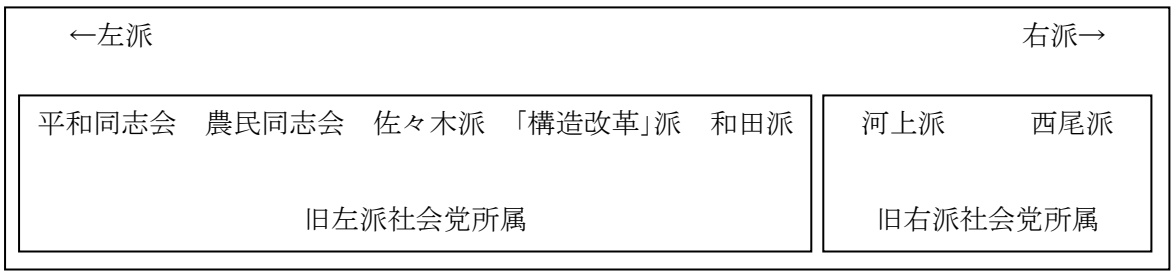
資料編

図 1.理論的対立軸による分類



出典：新川敏光『幻視のなかの社会民主主義』法律文化社、2007 年、p.66 をもとに、一部改編。

図 2.安保改定時の社会党内派閥構成



出典：石川真澄『人物戦後政治――私の出会った政治家たち』岩波書店、2009 年、p.114 をもとに、筆者が作成。